

今井四郎・木曾殿、主従二騎に格助(結果)なつ(ラ四・用・促)て格助(単純)のたまひ(ハ四・用・尊)ける(過・体)は(係助(区別))、

「日ごろは(係助(区別))なに(格助(引用))とも(係助(強意))おぼえ(ヤ下二・未)ぬ(打・体)鎧(格助(主格))が(格助(区別))、今日(係助(区別))は(係助(区別))」

重(ク・用・ウ)う(ラ四・用・促)なつ(完・体)たる(係助(強意))ぞ(間助(詠嘆))や(格助(区別))。「今井四郎(サ四・用・謙)申し(過・体)ける(係助(区別))は(係助(区別))、」御

身(係助(並列))も(副)いまだ(ラ下二・未)疲れ(尊・用)させ(ハ四・未・尊・補)給は(ハ四・未・尊・補)ず(打・終)。「御馬(係助(並列))も(係助(並列))弱(ラ四・用)り(ハ四・未・丁・補)候(ハ四・未・丁・補)は(係助(並列))」

ず(打・終)。「なに(格助(対象))に(ラ四・用・促)よつ(ラ四・用・促)て(接助(単純))か(係助(疑問))一両(格助(連体))の(格助(連体))御着背長(格助(対象))を(格助(対象))重(ク・用・ウ)う(ラ四・用・促)な(係助(区別))に(格助(対象))よ(ラ四・用・促)つ(ラ四・用・促)て(接助(単純))か(係助(疑問))一両(格助(連体))の(格助(連体))御方(格助(場所))に(格助(場所))御勢(格助(主格))が(格助(主格))」

は(係助(区別))おぼしめし(サ四・用・尊)候(ハ四・終・丁・補)ふ(推・体)べき(係助(区別))。それ(係助(区別))は(係助(区別))御方(格助(場所))に(格助(場所))御勢(格助(主格))が(格助(主格))」

候(ハ四・未・丁)は(係助(区別))ね(打・已)ば(接助(順確原因))臆病(格助(原因))で(格助(原因))こそ(係助(強意))さは(副)候(ハ四・已・丁・補)へ(係助(強意))おぼしめし(サ四・用・尊)候(ハ四・已・丁・補)へ(係助(強意))」

兼平(ハ四・終・謙)一人(ハ四・終・謙)候(ハ四・終・謙)ふ(接助(逆反))とも(接助(逆反))、余(格助(連体))の(格助(連体))武者(格助(引用))千騎(格助(引用))と(格助(引用))おぼしめせ(サ四・命・尊)矢(サ四・命・尊)七(サ四・命・尊)つ(サ四・命・尊)八(サ四・命・尊)つ(サ四・命・尊)候(ハ四・已・丁)へ(接助(順確原因))ば(接助(順確原因))」

候(ハ四・已・丁)へ(接助(順確原因))ば(接助(順確原因))し(副)ば(副)ら(副)く(副)防(ラ四・未・謙)き(ラ四・未・謙)矢(ラ四・未・謙)仕(ラ四・未・謙)ら(ラ四・未・謙)ん(意・終)。「あれ(格助(場所))に(格助(場所))見え(ヤ下二・用)候(ハ四・已・丁)へ(接助(順確原因))ば(接助(順確原因))」

候(ハ四・体・丁・補)ふ(ハ四・体・丁・補)栗津の松原(格助(引用))と(格助(引用))申し(サ四・終・謙)候(ハ四・終・謙)へ(接助(単純))て(接助(単純))あ(格助(連体))の(格助(連体))松(格助(連体))の(格助(連体))中(格助(場所))で(格助(場所))」

御自害(ハ四・命・丁)候(ハ四・命・丁)へ(ハ四・命・丁)「と(格助(引用))と(格助(引用))打(タ四・用・促)つ(タ四・用・促)て(接助(単純))行く(カ四・体)ほど(格助(時))に(格助(時))また(副)」

新(格助(連体))手(格助(連体))の(格助(連体))武者(格助(引用))五十騎(副助(程度))ばかり(副助(程度))出(カ変・用)で(カ変・用)き(カ変・用)たり(完・終)。「君(係助(区別))は(係助(区別))あ(格助(連体))の(格助(連体))松原(格助(連体))」

へ(格助(方向))入(ラ四・未)ら(ラ四・未)せ(尊・用)給(ハ四・命・尊・補)へ(ハ四・命・尊・補)。「兼平(係助(区別))は(係助(区別))こ(格助(連体))の(格助(連体))敵(カ四・用)防(カ四・用)き(ハ四・未・丁・補)候(ハ四・未・丁・補)は(係助(区別))」

ん(意・終)。「と(格助(引用))申し(サ四・用・謙)候(ハ四・用・謙)へ(過・已)ば(接助(順確偶然))、木曾殿(ハ四・用・尊)の(ハ四・用・尊)たまひ(過・体)ける(係助(区別))は(係助(区別))、」義

仲(格助(場所))都(格助(場所))にて(格助(場所))い(副)か(副)に(副)も(係助(強意))なる(ラ四・終)べ(当・用)かり(当・用)つ(完・体)る(完・体)が(接助(逆確))、これ(副)まで(副助(範囲))逃(カ変・体)れ(カ変・体)くる(カ変・体)」

は(係助(区別))、汝(格助(相手))と(格助(相手))一(格助(場所))所(格助(場所))で(格助(場所))死(ナ変・未)な(ナ変・未)ん(意・終)と(格助(引用))思(ハ四・体)ふ(ハ四・体)ため(断・終)なり(断・終)。「と(格助(引用))どこ(格助(場所))で(格助(場所))こそ(係助(強意))討(討ち死に)ち(討ち死に)死(討ち死に)に(討ち死に)」

こ(格助(場所))ろ(格助(場所))で(格助(場所))討(タ四・未)た(タ四・未)れ(受・未)ん(婉・体)より(格助(比較))も(係助(強意))、ここ(格助(場所))で(格助(場所))こそ(係助(強意))討(討ち死に)ち(討ち死に)死(討ち死に)に(討ち死に)」

を(格助(対象))も(係助(強意))せ(サ変・未)め(意・已)。「と(格助(引用))て(接助(単純))、馬(格助(連体))の(格助(連体))鼻(格助(対象))を(格助(対象))並(バ下二・用)べ(バ下二・用)用(バ下二・用)より(格助(起点))」

て(接助(単純))駈(カ下二・未)け(カ下二・未)ん(意・終)と(格助(引用))し(サ変・用)給(ハ四・已・尊・補)へ(ハ四・已・尊・補)ば(接助(順確原因))、今井四郎(サ四・用・謙)馬(格助(起点))より(格助(起点))」

飛(ラ上二・用)び(ラ上二・用)降(ラ上二・用)り(ラ上二・用)主(格助(連体))の(格助(連体))馬(格助(連体))の(格助(連体))口(格助(対象))に(格助(対象))取(カ四・用・イ)り(カ四・用・イ)つ(カ四・用・イ)い(カ四・用・イ)て(接助(単純))て(接助(単純))申し(サ四・用・謙)候(ハ四・已・丁)へ(接助(逆恒))、最(係助(区別))」

は(係助(区別))、「弓矢(格助(連体))とり(格助(連体))は(係助(区別))、年(格助(連体))ごろ(格助(連体))、日(格助(連体))ごろ(格助(連体))い(ナリ・体)かな(ナリ・体)る(ナリ・体)高名(格助(連体))候(ハ四・已・丁)へ(接助(逆恒))ども(接助(逆恒))、最(係助(区別))」

後(格助(連体))の(格助(連体))時(格助(連体))不(サ変・用)覚(サ変・用)し(サ変・用)し(サ変・用)つ(完・已)れ(完・已)ば(接助(順確恒時))、なが(ク・体)ぎ(ク・体)疵(断・用)に(断・用)て(接助(単純))候(ハ四・体・丁・補)ふ(ハ四・体・丁・補)候(ハ四・体・丁・補)は(係助(区別))」

断(断・終)なり(断・終)。「御身(係助(区別))は(係助(区別))疲(ラ下二・未)れ(ラ下二・未)させ(尊・用)させ(尊・用)給(ハ四・用・尊・補)ひ(ハ四・用・尊・補)て(接助(単純))候(ハ四・終・丁・補)ふ(ハ四・終・丁・補)候(ハ四・終・丁・補)は(係助(区別))」

断(断・終)なり(断・終)。「御身(係助(区別))は(係助(区別))疲(ラ下二・未)れ(ラ下二・未)させ(尊・用)させ(尊・用)給(ハ四・用・尊・補)ひ(ハ四・用・尊・補)て(接助(単純))候(ハ四・終・丁・補)ふ(ハ四・終・丁・補)候(ハ四・終・丁・補)は(係助(区別))」

は 係助(区別) 候は 八四・未・丁 打・終 。 敵 に 格助(受対) 押しへだて 受・用 くれ 、 ク・体 いふかひなき 人 の 格助(連体) 郎等

に 格助(受対) 組み落とさ 受・未 せ 給ひ 八四・用・尊・補 接助(単純) 討た 受・未 せ 給ひ 八四・用・尊・補 完未

ば 接助(順仮) 『 さばかり 日本国 に 格助(場所) 聞こえ 尊・用 させ 給ひ 八四・用・尊・補 完・体 つる 木曾殿 を 格助(対象)

ば 係助(区別) 、 それがし が 格助(連体) 郎等 の 格助(主格) 討ち 夕四・用 たてまつ 完・体 たる 『 なんど 副助(引用) 申さ サ四・未・謙

ん 婉・体 こと 係助(強意) 口惜しう 候へ 八四・已・丁・補 。 副 だ あ の 格助(連体) 松原 へ 格助(方向) 入ら 尊・用 せ

給へ 八四・命・尊・補 。 「 と 格助(引用) 申し 過・已 けれ ば 接助(順確原因) 、 木曾 、 「 さらば 。 」 と 格助(引用)

て 接助(単純) 、 栗津の松原 へ 格助(方向) ぞ 係助(強意) 駆け カ下二・用 八四・体・尊・補 給ふ 。

今井四郎 副 だ 一騎 、 五十騎 副助(程度) ばかり が 格助(連体) 中 へ 格助(方向) 駆け入り 、 鑑 八四・用 ぶんばり

立ちあがり 大音声 あげ ガ下二・用 接助(単純) 名のり 過・体 ける は 係助(区別) 、 「 日ごろ は 係助(区別) 音

に 格助(手段) も 係助(並列) 聞き 強・終 つらん 現推・終 、 今 は 係助(区別) 目 に 格助(手段) も 係助(並列) 見 マ上二・用

給へ 八四・命・尊・補 。 木曾殿 の 格助(連体) 御乳母子 、 今井四郎兼平 、 生年 三十三 に 格助(結果)

まかりなる 連体 ざる も あり 格助(引用) は 係助(区別) 鎌倉殿 副助(範囲) まで 係助(強意) も 係助(強意) しろしめさ

れ 尊・用 存・体 現推・体 ぞ 係助(強意) 兼平 討つ 夕四・用・促 て 接助(単純) 見参 に 格助(対象) いれよ 。 「 と 格助(引用)

て 接助(単純) 射残し 存・体 たる 八筋 の 格助(連体) 矢 を 格助(対象) 、 差しつめ 引きつめ ナリ・用 さんさんに 射る ヤ上二・終

死生 は 係助(区別) 知ら 八四・未 打・用 ず 副 やにはに 敵 八騎 射落とす 。 其 の 格助(連体) 後 打物 抜い 八四・用・イ

て 接助(単純) 、 あれ に 格助(対象) 馳せ合ひ 、 これ に 格助(対象) 馳せ合ひ 切つ 八四・用・促 て 接助(単純) まはる 八四・体

に 接助(逆確) 、 面 を 格助(対象) 合はする も ぞ 係助(強意) なき 。 分どり あまた し サ変・用 完・用 たり 過・終 けり 。

ただ 、 「 射とれ や 間助(呼び) 。 」 と 格助(引用) て 接助(単純) 、 中 に 格助(場所) 取り込め 、 雨 の 格助(主格)

降る 八四・体 比・用 やうに 射 ヤ上二・用 過・已 けれ ども 接助(逆確) 、 鑑 よけれ ば 接助(順確原因) 裏 八四・未 打・用 ず 、 空き間

を 格助(対象) 射 ヤ上二・未 打・已 ね ば 接助(順確原因) 手 も 係助(強意) 負は 八四・未 打・終 ず 。

木曾殿 は 係助(区別) 副 だ 一騎 、 栗津の松原 へ 格助(方向) 駆け 八四・体・尊・補 給ふ 八四・体・尊・補 格助(単純) 、 正月 二

十一日 、 入相 ばかり 副助(程度) の 格助(連体) こと なる に 格助(添加) 、 薄氷 は 係助(区別) 張つ 八四・用・促 存用 たり

けり 過・終 深田 あり 格助(引用) も 係助(強意) 知ら 八四・未 打・用 ず して 接助(単純) 、 馬 を 格助(対象) ざつと 八四・用 うち入れ

完・已 接助 (順確偶然) 馬の頭も 見えざりけり。あふれども 接助 (逆確) 打てども 打てども 働かず。今井が行方の

おぼつかなさ 格助 (原因) に、振り仰ぎ 給へ 内甲を、三浦石田次郎為久、

追つかかつて 接助 (単純) 、よつ引いて 副 ひやうふつと 射る。痛手なれば 断・已 接助 (順確原因) 、

真甲を 格助 (対象) 馬の頭に 格助 (場所) 当てて 接助 (単純) 、うづぶし 給へ 八四・已・尊・補 完・体 とこ

ろに 格助 (場所) 、石田が 格助 (連体) 郎等二人 落ち合うて 接助 (単純) 、つひに 木曾殿の 格助 (連体) 首

を 格助 (対象) ば 係助 (区別) 取つて 完・用 過・終 げり。太刀の 格助 (連体) 先に 格助 (場所) 貫き、高く

差し上げ、大音声を 格助 (対象) あげて 接助 (単純) 、「この 格助 (連体) 日ごろ 日本国に 格助 (場所)

聞こえ させ 給ひ 八四・用・尊・補 完・体 つる 木曾殿を 格助 (対象) ば 係助 (区別) 、三浦石田次郎為久が 格助 (主格) 討ち

たてまつ 完・体 たるぞ 係助 (強意) や 間助 (呼び) 。「と 格助 (引用) 名のり ければ 接助 (順確原因) 、今井四郎い

くさし 係助 (逆確) が 格助 (対象) 聞き、「今は 接助 (区別) たれを 格助 (対象) 庇は 八四・未

ん 意・終 格助 (引用) て 接助 (単純) か 係助 (反語) 、いくさを 格助 (対象) も 係助 (強意) す 係助 (強意) べき。これを 格助 (対象)

見 八四・命・尊・補 給へ、東国の 格助 (連体) 殿ばら、日本一の 格助 (連体) 剛の 格助 (連体) 者の 格助 (主格)

自害する 手本。と 格助 (引用) て 接助 (単純) 、太刀の 格助 (連体) 先を 格助 (対象) 口に 格助 (場所) 含み、

馬より 格助 (起点) 逆さまに 飛び落ち、貫かつて 接助 (単純) ぞ 係助 (強意) 失せ 完・用 過・体 ける。

副 係助 (強意) 粟津の 格助 (連体) いくさは 係助 (区別) なかり 過・已 けれ。